

# 東日本大震災・原子力災害伝承館 調査・研究部門活動報告会

日時 : 令和4年3月12日(土) 13:00~16:00  
場所 : 研修室(伝承館内)  
定員 : 20名(事前申込・先着順)  
参加申込 : 右記特設ページよりお申込みください。  
(参加無料)

※ YouTubeにて生配信いたします。  
特設ページよりアクセスしてください。

▽特設ページ



<https://densyoukan-event.com/>

## プログラム

12:30~ 受付開始

13:00~ 開会

13:10~13:50

### 「福島環境と人をつなぎ、伝える」

館長 高村 昇(長崎大学原爆後障害医療研究所)

今回は環境中のアーカイブ分析や伝承館語り部の分析、住民の放射線被ばくリスク認知調査を通じて福島環境と人をつなぎ、伝える研究について報告します。

13:50~14:30

### 「これまでの放射線防護対策のふり返し、現在、そして未来に」

上級研究員 安田 仲宏(福井大学附属国際原子力工学研究所)

各種事故調査報告書や地域の震災の記録から良好事例と問題点を抽出。反省すべき点を明らかにし、研究の方向性を検討。現状の対策に照らして改良すべき点を指摘。原子力防災の拠点として地元と連携し、伝承館から全国に、世界に発信する研究活動を報告します。

14:40~15:20

### 「原子力災害の調査研究」

上級研究員 関谷 直也(東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター)

放射線のみならず、人の心理も見えないものだからこそ、調査など実証的研究を積み重ね、現状を明らかにしていく必要があります。被災住民の経年調査、地域の課題、若者の意識など、共同で継続している実証的な調査研究について、客員研究員とともに報告します。

15:20~16:00

### 「消えゆく記憶・記録のアーカイブはいかに可能か」

上級研究員 開沼 博(東京大学大学院情報学環)

例えば、ここ11年にわたるSNS上の福島関連の言説をいまから収集しようとしても、そのコストや手間は想像以上にハードルが高いことがわかります。記憶・記録をいかに残すか報告します。

